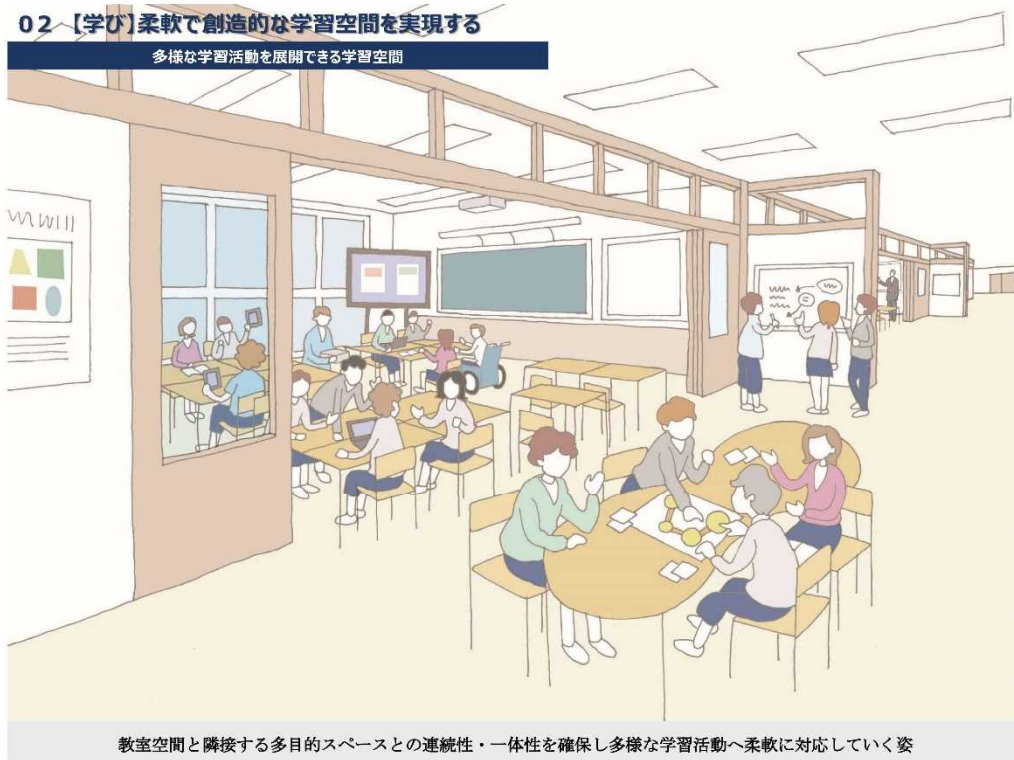


国の新しい時代の学びを実現する学校施設の例示について

(イメージデザイン)



08 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



どの教室からも利用しやすいよう学校の中心に図書館を計画し、調べ学習や自主的・自発的な学習が展開されていく姿

09 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開・教室環境の充実



ICT環境の整備や移動が容易な椅子等の配置により、遠隔・オンライン教育など多様な学習活動が展開される教室環境としていく姿

12 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応



障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が安全かつ円滑に交流及び共同学習を行うことができるスペースを確保していく姿

13 【生活】健やかな学習・生活空間を実現する

快適で温かみのあるリビング空間



木材を活用して温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

16 【共創】ともに創造する共創空間を実現する

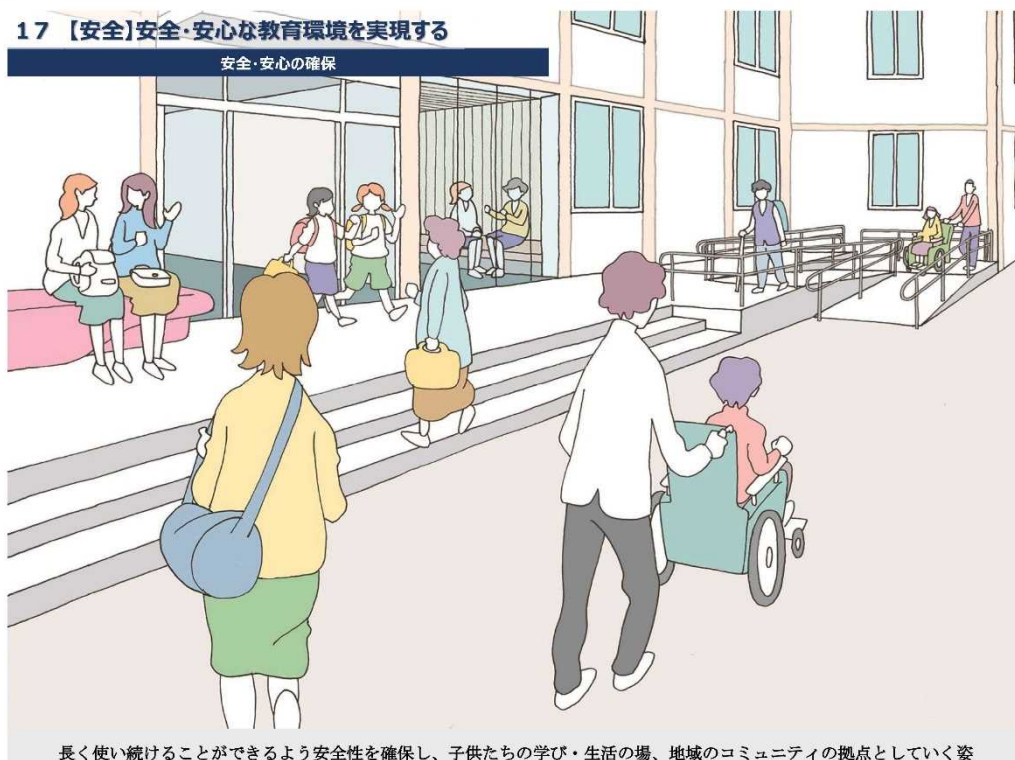
多様な「知」を集積するための複合化・共用化等



他の公共施設（図書館等）との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿

17 【安全】安全・安心な教育環境を実現する

安全・安心の確保



長く使い続けることができるよう安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

(実践事例)

家具の工夫による学習空間の創出

京都教育大学附属桃山小学校（京都府 京都市伏見区）

本事例のキーワード

柔軟な学習空間

家具



事例のポイント

ロッカーとホワイトボードを兼ねた可動式の壁により柔軟な空間の創出が可能に。多様な学習環境に対応する「未来型教室」への改修。

児童の健康、協働的学びと使いやすさに配慮した机や椅子を採用。子どもの目線に合わせた快適な学習環境を整える。

改修概要

京都教育大学附属桃山小学校は、明治41年（1908年）に開校し、100年以上の歴史を持つ国立学校である。京都教育大学や附属学校園と連携をはかり、「子どもの側から教育を発想する」ことを理念に掲げて「創造性教育研究」「情報教育研究」「伝統教育研究」「外国語教育」など、教育における様々な研究、取組を行っている。特に教育の情報化については全国に先駆けて研究を行い、約10年前より新教科「メディア・コミュニケーション科」を設立し、情報活用能力の育成と同時に、ネットワークインフラの整備を進め、一人一台の端末環境を実現してきた。

4 学年以上の普通教室のある南校舎は老朽化が進んでいたため、多様な学習空間に変えられる「未来型教室」として内部改修が行われた。可動式のロッカーが配置され、空間を学習の形態に合わせて設置することが可能となり、教師が学習に合わせて空間をマネジメントできるようになった。附属桃山小学校では、教育現場の「当たり前」にあるものを見直し、教室の作り方や学習机、椅子、通学鞆に至るまで、多くの改善を重ね、児童に寄り添った快適な学習環境を整えている。



改修ポイント 1

家具の配置の工夫による連続した空間



普通教室と多目的スペースの仕切りを、ホワイトボード付きロッカーの可動式の壁とし、教室の連続したフレキシブルな利用が可能な空間としている。教師が学習に合わせて空間をマネジメントしている。窓側は、カウンターテーブルとしても使うことができる。



4年生以上の教室は、大型モニターが2台設置され、360度全てがホワイトボードに囲まれており、子ども達はデジタルとアナログの両方を使い、自由にアウトプットできるように工夫している。

改修ポイント 2

協働的な学びと使いやすさに配慮した机・椅子



4年生以上の机は、固定式の新JIS企画よりも一回り大きい、W700/D500のサイズでオリジナルの天板のみを作成し、古い机に付け替えて使用している。

椅子はビジネスチェアを採用し、自由に身体の向きを変えられ、いつでも好みの高さに調整することができるように。

協働的な学びへの対応として、教室机の高さは統一し、椅子で高さを調整している。

改修ポイント3

工夫が施された家具や設備



運動場は人工芝を用い、一年中トラックが引いてあることにより、ラインパウダーを一切使わなくなるようになった。

音楽室の椅子はカホンを使用。木琴や鉄琴などの音楽教育楽器のみならず、和楽器や海外の伝統的楽器を導入して、子どもたちが世界の多様な音楽文化に触れられるように整備している。



子どもたちが自然と触れ合いながら学ぶことができる高台（学習の森）。人工芝のスライダーや土管が設置されている。

学校概要

京都教育大学附属桃山小学校
京都府 京都市伏見区

完成：令和2年12月
学校規模：12学級、420名
校舎面積：5,771㎡
※令和4年4月当時



新しい学びに対応した教育環境の実現、 地域とともにある学校づくり

土小学校（千葉県柏市）

本事例のキーワード

部分改修

対話型設計

柔軟な学習空間

地域と連携

メディア
センター

バリアフリー化

小学校



事例のポイント

学習指導要領に対応した主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教育環境の向上と老朽化対策を一体的に解決する市の改修モデルとなるように学校関係者の対話を重ね、検討が行われた。

改修概要

千葉県柏市では、市内学校施設の老朽化を背景として、中長期的な学校施設保全計画を検討する「学校施設保全計画部内検討委員会」と、校舎長寿命化改良工事の具体的な内容を検討する「校舎長寿命化改良工事設計作業分科会」の2つの部局横断的な検討会を設置。この2つの検討会が連携して、ICTを活用した教育への対応やインクルーシブ教育への対応等、新しい学習指導要領に沿った教育環境の向上を目標として校舎の在り方が検討された。

「校舎長寿命化改良工事設計作業分科会」にて開催されたワークショップでは、教職員、保護者、地域住民が参加し、管理諸室や地域開放スペース、図書スペースのゾーニング等、具体的な改善案に関する意見を取りまとめた。

改修整備計画では、子どもたちの学習環境・生活環境の向上に加えて、地域とともにある学校づくりのために、地域連携の充実とセキュリティを考慮して単独の棟に地域関係諸室を集約した。また、繰り返し行われていた増改築のため教室配置や昇降口が分散して、管理が困難だったという課題に対し、管理諸室（職員室等）の周りに普通教室を集約・再配置し、特別教室、管理、地域開放のエリアを整理した。

普通教室は学年単位でまとめ、一体的に授業がしやすいように再配置するとともに、教室内は主体的・対話的で深い学びの実現という新学習指導要領への対応や、狭い・収納が少ない等の課題に対応するため、新たな設えが計画されて、創造的で柔軟な空間が実現されている。このほか、バリアフリー化のためエレベーター・スロープの新設、トイレの増設などが実施されている。



検討プロセス

新しい学びに対応した教育環境を実現

中長期的な学校施設保全計画を検討する「学校施設保全計画部内検討委員会」と校舎長寿命化改良工事を検討する「校舎長寿命化改良工事設計作業分科会」が設置され、2つの部局横断的な検討体制が連携して、ICTを活用した教育への対応やインクルーシブ教育への対応など、新しい学習指導要領に沿った教育環境の向上を目標として校舎の在り方が検討された。

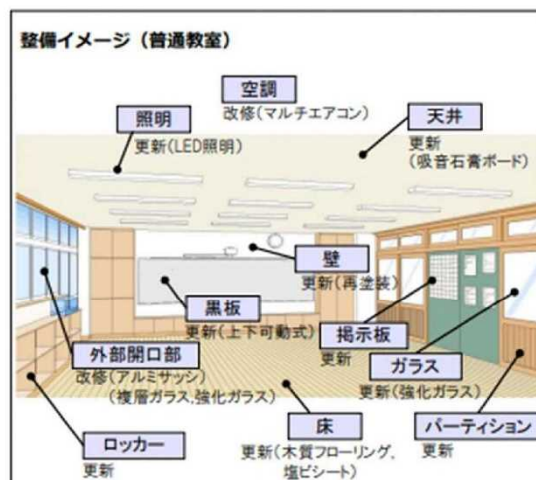
3面ホワイトボードとする教室の設えや、エレベーター、スロープの設置等のバリアフリー化など、土小学校の具体的な改修内容を決定し、その内容を新たな整備水準として中長期的な学校施設保全計画にも反映した。

地域とともにある学校づくり

教職員、保護者、地域住民が参画したワークショップを複数回開催した。前半は、学校への思いや現在の学校の課題について確認し、後半は、その内容を踏まえ、管理諸室や地域開放スペース、図書スペースなどのゾーニングや昇降口の集約など、具体的な改善案に関する意見をとりまとめた。



ワークショップの様子



学習指導要領や施設の現状・課題等を踏まえ
整備内容について検討（普通教室）

改修ポイント1

主体的・対話的で深い学びを促す教室空間に転換

各教室には、3面ホワイトボードやプロジェクターを整備するとともに、室内空間を有効に活用できるように収納やロッカーを増設した。また、間仕切りは全面開放できるものに更新した。このような工夫により、グループ学習等の柔軟な活動に対応できる教室空間への転換を図った。

また、教室背面には開口部を設けて、1学年2学級のユニットを計画した。これにより、ICTと連動して一人の教員が二クラスを一体的に授業ができるメリットを生かし、学年担任制を採用する等、教職員の専門性や相互連携を高める取組も進めている。



主体的・対話的で深い学びを促す
教室空間（3面ホワイトボード）



ホワイトボード付き間仕切り



隣の教室との開口部（教室背面）

改修ポイント2

図書活動をより発展させる、メディアセンターの充実



地域ボランティアと協力して作った
装飾・レイアウト

子どもたちの好きな場所であり、学校の魅力の一つでもある図書室にメディア機能を付加することにより、調べ学習が容易に行える環境を整えた。また、子どもたちや地域の方が利用しやすいよう、図書室の近くに昇降口や地域交流エリアを配置するなど工夫した。効果として、休み時間を利用して読み聞かせ活動を行ったり、体験的なふるさと学習を実施するなど、多様な活動が可能となっている。

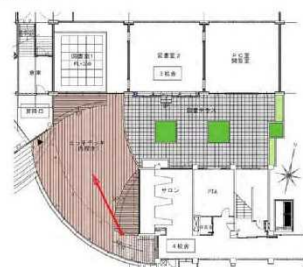


畳部分を活用した茶道体験



←
図書室と地域サロンを結ぶ
「土っ子デッキ」
屋外での活動や地域との交流
に使われる多目的スペースと
なっている

→
「どこでも読書」の環境をつくる
「図書テラス」を図書室前に設置



改修ポイント3

地域と連携・協働する、地域交流スペースを集約



ふるさと資料室

地域連携の充実とセキュリティを考慮して単独の棟に地域関係諸室を集約した。1階に地域交流にも活用できる多目的室やサロン、2階に学童保育に使用することもスペース、3階にふるさと資料室を配置した。

学校では地域と連携した教育活動（地域学校協働本部等）にも力を入れており、地域交流スペースを生かして、体験的な教育活動や、学校運営協議会における意見交換など、様々な活動が活発に行われている。



多目的室を使った昔の道具体験



学校運営協議会

改修ポイント4

バリアフリー化によるインクルーシブ教育への対応



屋内運動場と本校舎をつなぐスロープとカラフルなミニ雑壇を設置

分散していた昇降口を1つに集約し、安全で明るい昇降口を確保した。また、全ての普通教室にアクセスできる位置にエレベーターを新設するとともにトイレを増設している。

そのほか、体育館や駐車場から校舎へアクセスできるスロープを設置することで、バリアフリーに対応した施設に改修している。



←
地域の利用も考慮して、
図書室の近くに昇降口を配置

→
急勾配だった正門周りを
緩やかで楽しい門に改修。
土小の特徴である読書を
イメージしたブックゲート



学校概要

土小学校
千葉県柏市

全体工期：令和元年7月～令和2年11月

学校規模：13(3)学級、428人

※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。

敷地面積：12,302m²

保有面積：校舎 4,547m² / 屋体 720m²

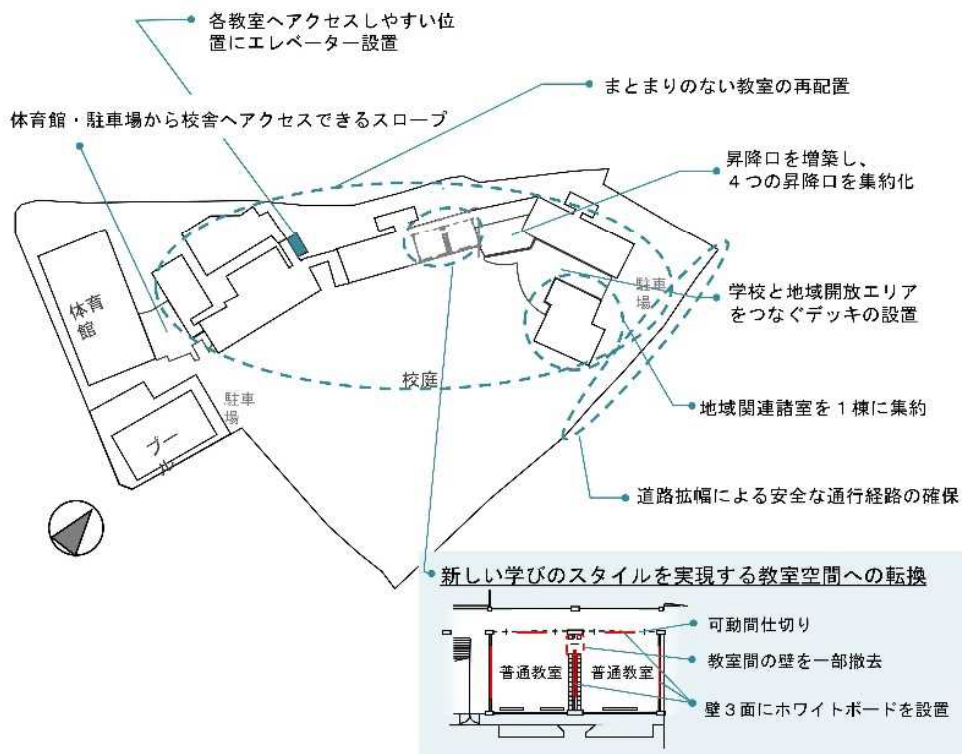
構造：校舎 RC造3階建 / 屋体 S造2階建

※令和3年4月時点

主な改修内容

- ・ 体育館・駐車場から校舎へアクセスできるスロープの設置
- ・ 各教室へアクセスしやすい位置にエレベーター設置
- ・ まとまりのない教室の再配置
- ・ 昇降口を増築し、4つの昇降口を集約化
- ・ 学校と地域開放エリアをつなぐデッキの設置
- ・ 地域関連諸室を1棟に集約
- ・ 道路拡幅による安全な通行経路の確保
- ・ 新しい学びのスタイルを実現する教室空間への転換

改修計画の全体像



詳細情報はここから

学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/1372577_00003.htm

学校施設や教育環境のより良い改善を図るための課題解決事例集
(事例集の構成と見方についてはこちらをご覧ください)

資料の作成
令和2年11月現在



長寿命化改修により 新しい時代の学びを支える学習空間を実現

菅生小学校（神奈川県川崎市）

本事例のキーワード

長寿命化改修

図書スペース

柔軟な学習空間

脱炭素

木質化

トイレの快適化



事例のポイント

目標耐用年数を80年と設定し、建物の機能や性能を引き上げる長寿命化改修を実施。改修前の校舎が抱えていた様々な課題を解消し、新しい時代の学びを支える学習空間を実現。

事例概要

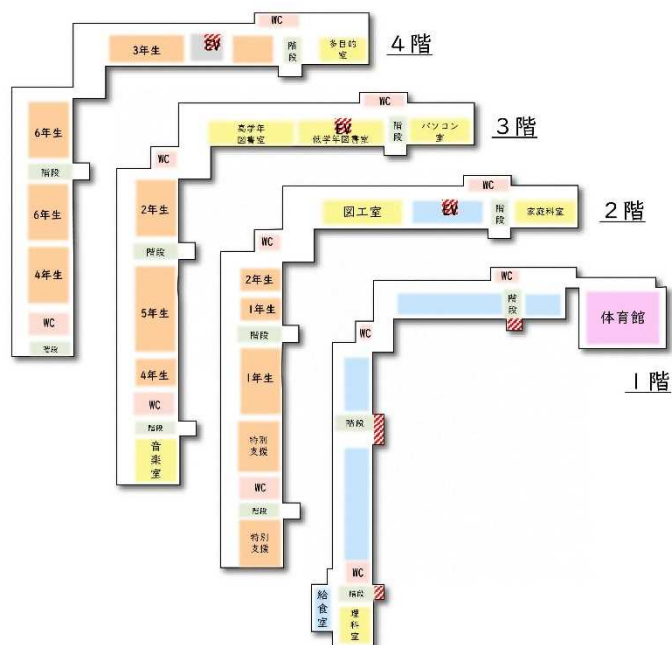
川崎市では、保有する学校施設のうち、築年数が20年以上の施設が全体の約7割を占めており、老朽化への対応が課題となっていた。老朽化したストックを多く抱える中、厳しい財政状況においては、改築需要を抑制する必要があるとあり、また、新学習指導要領等に基づく多様な学習内容や形態に対応した高機能かつ多機能な施設環境の整備に加え、防災対策、バリアフリー化、普通教室やトイレ等の子供たちの学習・生活空間の快適化、環境負荷の低減等のさまざまな配慮が学校施設には求められていた。

このような背景から、川崎市では「学校施設長期保全計画」を策定し、その中で学校施設の目標耐用年数を80年と設定。内外装改修や設備改修等の老朽化対策、教育環境の質的向上、環境対策を行う改修を一体的に行う再生整備を進める方針が決定された。

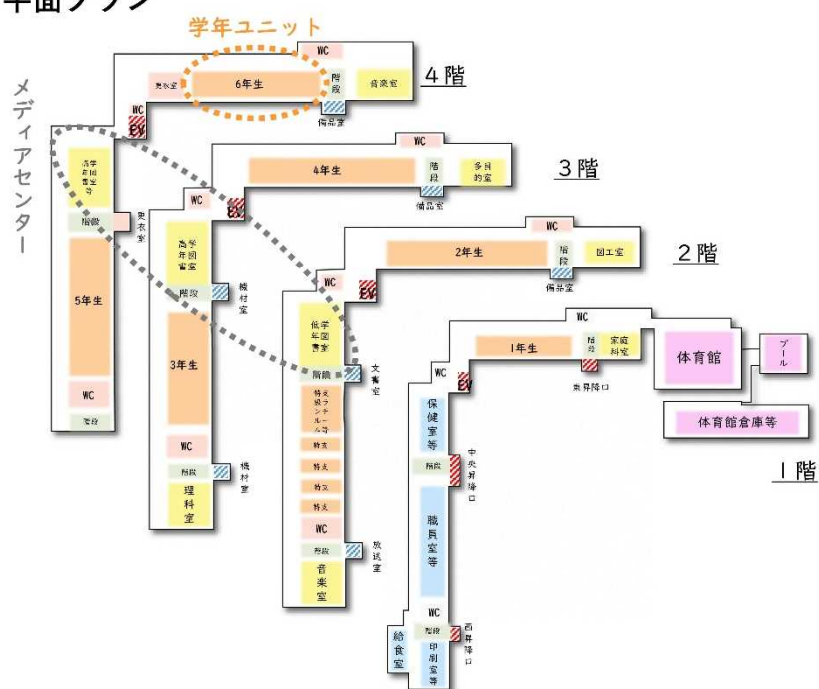
菅生小学校においては、上記計画に基づき、耐用年数80年を目指した再生整備が行われた。具体的には、老朽化対策、環境対策に加えて、校舎中央部へのメディアセンターの設置、収納や掲示のスペースを拡充する等の普通教室周りの環境整備、内装の木質化、トイレの快適化等が実施された。このような整備により、改修前の校舎が抱えていた様々な課題を解消し、多様な学習活動を展開できる学習空間が実現されている。



改修前 平面プラン



改修後 平面プラン



事例ポイント 1

弾力的な運営を可能とするスペースの再配置

改修前の校舎では、同じ学年の教室が異なる階に配置されており学年のまとまりが取りにくい、図書室とパソコン室が離れていることから調べ学習で同時利用しにくい、利用する時間数や使用頻度の高い学年と特別教室が離れていることで移動動線が長くなっているなどの様々な課題を抱えていた。今回の改修では、スペースを再配置することによりこれらの課題を解消し、学校全体が運営しやすいよう改善が図られている。

例えば、EV棟を校舎の中央に移して増築し、EVがあったスペースを活用して4クラスを基本とした学年ユニットが構築されている。また、どの学年からも利用しやすいように校舎の中央部分にメディアセンターとして図書室とパソコン室をまとめて再配置するとともに、メディアセンターの上下階をつなぐ階段を新たに設け、上下階を行き来しながらパソコンと図書をより一体的に活用できるように計画されている。その他、靴を脱いでリラックスして本に触れられるように低学年用の図書室には小上がり空間を整備したり、メディアセンターの廊下側には、展示した本が見えるよう、オープンな展示スペースを設ける等、子供たちが気軽に本を楽しめる場所となるように様々な工夫がされている。



メディアセンターの低学年図書室
(靴を脱いでリラックスして読書ができる)



メディアセンターの上下階をつなぐ階段



メディアセンター
(展示書架)



メディアセンター前の様子
(外側からも展示された本が見える)

事例ポイント2

多様な学習活動を展開できる教室空間とするための環境整備

基本計画では、教職員とのワークショップで教室として重要な展示・掲示・収納の機能について検証を行った。検証を踏まえて教室の設えについて議論し、背面ロッカーは横長とし、ランドセルとその他の教材が重ならず収納できるつくりとした。ロッカーの上部は天井までを掲示面とし、広い掲示スペースを確保した。また、教室正面の黒板下や廊下側、窓下にも新たに収納棚を設け、収納量を増やした。

また、多様な学習活動に柔軟に対応できるよう、廊下側間仕切り壁は中央の3分の2がオープンに開放でき、廊下も教室の延長として学習空間として活用できるように改修した。

その他、教室正面の黒板の上には、プロジェクターを設置し、ICT環境の整備にも取り組んだ。



普通教室のオープン化



普通教室・教室周りの機能向上
(掲示板付きの間仕切り)

事例ポイント3

健やかな学習・生活空間を実現する

学校は子供たちが1日の大半を過ごす学習・生活の場であり、子供たちの居場所となる温かみのある空間づくりをすることが大切である。また、衛生環境改善の視点や生活スタイルの変化等を踏まえ、トイレの洋式化・乾式化などの取組も求められる。

菅生小学校では、階段や廊下などの床を全てフローリングとし、腰壁にも木材を利用。来客用玄関には内装の木質化に加えて木製の家具を置く等、木材を積極的に活用することにより、温かみのある健やかな学習・生活空間としている。

また、狭かったトイレは、男女別に階を分けて設置。床を乾式化し、中央にアイランド型の手洗い器を設けるとともに、壁は明るい色彩に改修。子供たちが楽しく快適に過ごせる空間を実現した。



木の温かみが感じられる内部空間



トイレの快適化

学校概要

菅生小学校
神奈川県川崎市

全体工期：平成29年7月～平成31年12月

学校規模：29（5）学級、752人 ※括弧内は特別支援学級数を表す。

敷地面積：12,524㎡

保有面積：校舎 6,336㎡ / 屋体 605㎡

構造：校舎 RC造S造4階建 / 屋体 S造2階建

※令和5年5月

新しい時代の学びを実現するため 創意工夫して学習空間を計画している学校

若葉台小学校（東京都立川市）

本事例のキーワード

柔軟な学習空間

木材利用

図書スペース



事例のポイント

小学校2校の統合を機に新校舎を整備し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、柔軟で創造的な学習空間を工夫している。

事例概要

立川市若葉町には、旧けやき台小学校と旧若葉小学校の2つの小学校があったが、両校ともに、児童数の減少が見込まれており、施設の老朽化も進行していた。このため、小規模校の様々な課題を解消するとともに、教育環境を向上して新しい学びを実現するため、平成30年4月に2校を統合して若葉台小学校を新設し、令和3年4月には新校舎に移って新たに教育をスタートさせた。

新校舎の計画は、新校舎建設マスタープラン検討委員会をはじめ、アンケート、ワークショップ、学校ヒアリング等により、子どもたちや保護者、教職員や地域の方々から様々な意見を聞きながら進められた。

新校舎は、様々な学習形態にフレキシブルに対応できる教室まわりや、図書室を中心とした多目的室や特別教室のまとまりをラーニング・コモンズとして整備するなど、新しい時代の学びの実現に向けた学習空間が計画されている。また、内装には多摩産の木材等が使われており、温かみとうるおいのある快適な室内環境が実現されている。

その他、地域の方々が立ち寄れるような「みんなの広場」を設けたり、学校の活動を地域に発信できるように、廊下の窓には子どもたちの作品等を飾る展示棚が設えてあったり、学校と地域をつなぐための様々な工夫も行われている。



事例ポイント1

ロッカー等の配置等の工夫による教室空間の有効活用

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、その基盤となる学習空間も、画一的・均質的なものから、柔軟で創造的なものに転換していく必要がある。

若葉台小学校では、子どもたちの学習の成果の発表などに柔軟に対応するための空間として、普通教室にはオープンスペースが併設されている。また、普通教室内の空間を多様な学習活動に最大限生かすための創意工夫として、掃除用具入れやランドセルロッカー、給食配膳台等の家具類を教室外のオープンスペースに設置し、8m×8mの一般的なスパン割の中でも広い学習空間を確保している。これにより教室背面の壁面が全面的に利用できるため、壁面を利用したグループ学習など、様々な学習形態にもフレキシブルに対応できる。その他、「パオ」という名の小教室を併せて整備し、支援が必要な子どものクールダウンや教室の拡張スペース、教室以外の子どもたちの居場所として活用ができるように計画している。



普通教室とオープンスペース
(間仕切りを開いた状態)



普通教室とオープンスペース
(間仕切りを閉じた状態)



オープンスペースに設置された
ランドセルロッカー



各教室に計画された小教室「パオ」
(低学年)



各教室に計画された小教室「パオ」
(高学年)

事例ポイント2

読書・学習・情報のセンターとなるラーニング・コモンズ

どの教室からも利用しやすいよう、図書室を学校の中心に計画し、図書室を中心とした多目的室や特別教室のまとまりを「ラーニング・コモンズ」と位置付けている。図書室は間仕切りの無いオープンな空間で、書架と閲覧机だけでなくカーペットや畳を敷いた小空間があるほか、階段で直接、閲覧学習室とつながるように計画されており、子どもたちが日常的に立ち寄りやすい身近な場所となっている。また理科室や図工室などの特別教室との連携も行いやすいため、各教科等における調べ学習での活用や、子どもたちの自主的・自発的な学習、協働的な学習を促すことにつながっている。



廊下との仕切りがなく
自由に立ち寄りやすい図書室



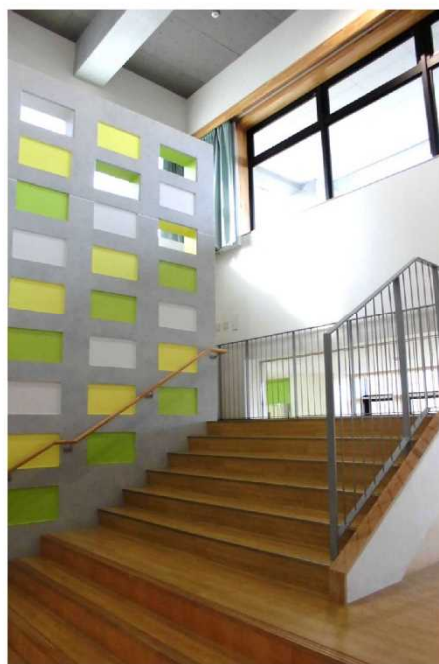
図書室内の様子



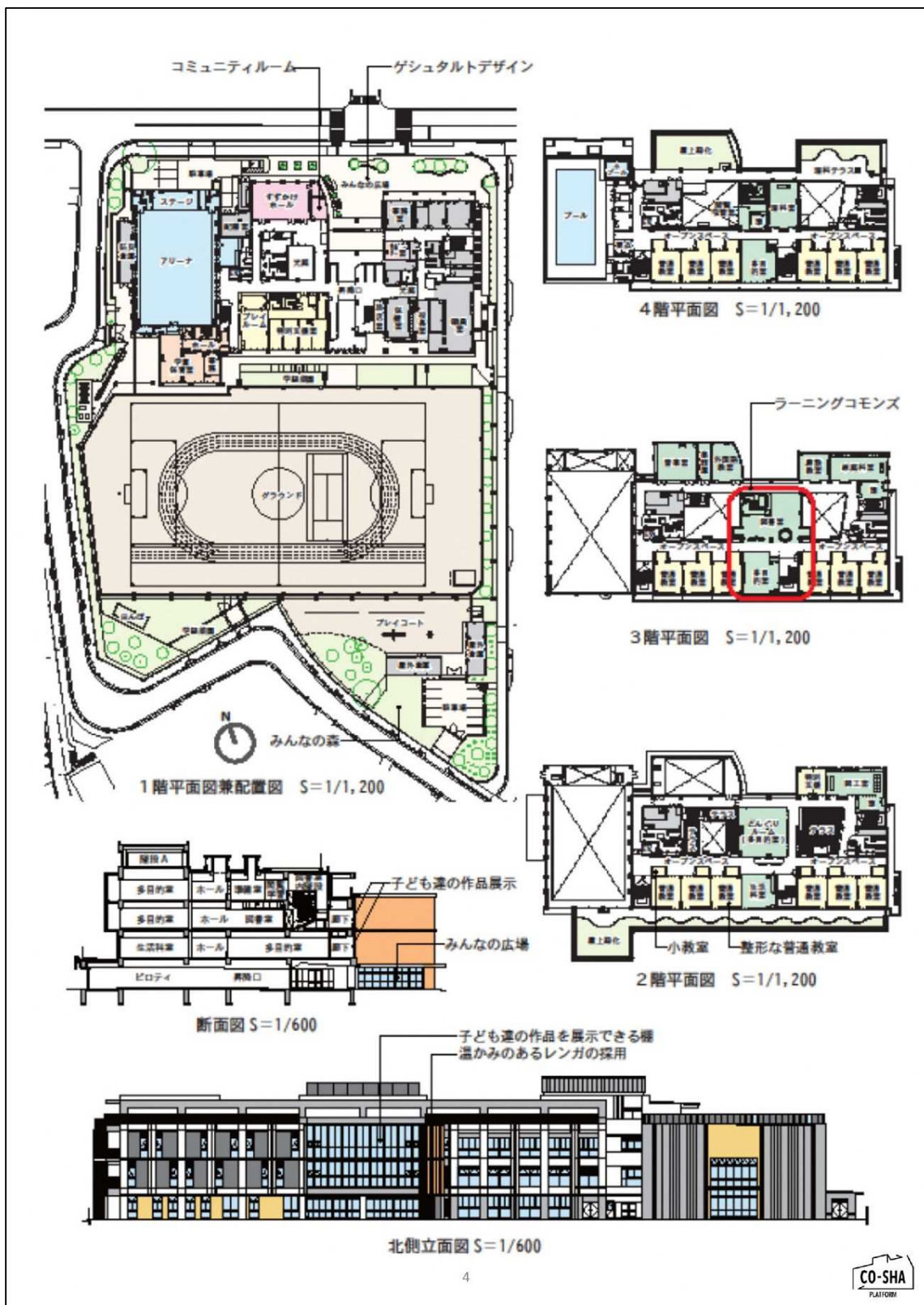
閲覧学習室の様子



図書室内に設けられた畳コーナー



図書室内の階段を上ると閲覧学習室に接続



学校概要

若葉台小学校
東京都立川市

全体工期：令和元年7月～令和3年2月
学校規模：18学級、512人（特別支援学級 3学級22人）
敷地面積：15,979㎡
保有面積：10,739㎡
構造：RC造（一部S造、SRC造）4階建
※令和6年2月時点

コラム

移動式の家具を活用して実現した柔軟な共創空間「すずかけホール」

若葉台小学校には、数多くの地域開放空間があり、「すずかけホール」はその中心ともいえる多目的ホールである。「すずかけホール」では、移動式の家具（ベンチタイプの移動観覧席）を活用し、子どもたちの学習・活動はもとより、様々な地域開放に活用できる柔軟な空間を実現した。

未使用時の観覧席は壁面に格納されている。操作は手動となるものの、重量は軽く、最低2人の学校職員で出し入れが可能であるという。収納時はフロアを広く使用することができるので、ホール全体を使って活動を展開できる。

立川市教育委員会の主催する「落語キャラバン」で、子どもたちが生の落語を聞く様子。観覧席を活用して朗読発表会や音楽鑑賞会、タブレットを使用した学習発表等が日常的に行われている。

地域の防災会議や住民の運営する放課後子ども教室のための空間としても使われており、映画会やゲーム大会の場となるなど、とくに広い空間が必要な活動を行う際に利用されている。



ホール全体を使った活動の様子



落語キャラバン



東京オリンピックの
パブリックビューイングの様子



CO-SHA
PLATFORM

余裕教室を有効活用した教室の再配置

南砺市立井波中学校（富山県南砺市）

本事例のキーワード

長寿命化

柔軟な学習空間

余裕教室の活用

温熱環境



事例のポイント

長寿命化改修において、生徒の主体的・協働的な学びが行えるよう、生徒数の減少により生じた余裕教室を「学年ルーム」や「教科専用室」として、普通教室と一体的に使用できる位置に整備。

既存躯体の劣化状況を把握し、適切な処置を実施。耐久性向上のため、進行したコンクリートの劣化への対応と外壁仕上げの剥落防止対策として外壁板を新設した。

改修概要

井波中学校は、昭和48年（1973年）の竣工から約40年が経過し、多目的に使用できる教室がなく、多様な学習形態への対応が難しい点や、バリアフリー対応が不十分である点など、時代の変化による機能や性能が不足していた。また、老朽化の進行で設備配管の不具合が頻発しており、外壁等の断熱化がされておらず温熱環境が悪いなど、快適な教育環境とは言えない状態だったため、長寿命化改修を中心に施設の質の改善が求められた。

井波中学校改修は南砺市で初の長寿命化改修事例となり、改修後30年以上建物を使用することを踏まえて事業が進められた。

長寿命化改修の特長としては「生徒の主体的・協働的な学びづくり」が図れるよう、生徒数の減少により生じた余裕教室を「学年ルーム」や「教科専用室」として整備。学年ルームは可動式間仕切りを設置して、少人数指導など多目的に柔軟な活用ができるように計画した。

温熱環境の改善として、屋上および外壁を断熱化するとともに、複層ガラスを採用することで断熱性を向上させた。これにより、省エネルギー化が図られ、室内環境も改善された。また、エレベーター・スロープの設置、各階に多目的トイレを設置することで、バリアフリー化を図り、誰もが安全で円滑に使用できる施設に改善した。

また、教育環境の向上を図るため、井波中学校らしい空間づくりとして、地域住民の協力により「井波彫刻総合会館」の分館・出張ギャラリーを正面玄関に設けたり、県産の杉材を使用することで木のぬくもりを感じる教室や廊下とするなど、地域の特色を生かした改修が行われた。



改修ポイント 1

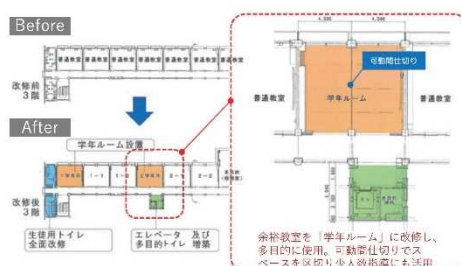
余裕教室の再配置



可動間仕切りを活用し、少人数指導を実施している。

生徒の主体的・協働的な学びづくりが図られるよう、生徒数の減少により生じた余裕教室を、「学年ルーム」や「教科専用室（英語・社会）」として、普通教室と一体的に使用できる位置に整備した。学年ルームには、作品掲示等に活用できる可動間仕切りでスペースを区切り、少人数指導など多目的な使用ができる。また、ICTを活用した授業にも対応できるよう、黒板にはプロジェクターで投影できる仕様に整備している。

中庭の再整備に伴い、これに面する美術室を半屋外のコミュニケーションスペースとしても整備した。



改修ポイント 2

地域の特長を生かし、木のぬくもりを感じる空間に改修



各教室前のサインの様子

教室内や体育館の壁や床の内装材、家具材には地域産材の杉をふんだんに活用し、木のぬくもりを感じる空間に改修。

「木彫刻の井波」として知られる井波らしさを校舎に取り入れるため、正面玄関に井波彫刻を飾るギャラリースペースを設け、各教室前のサインは透かし彫の彫刻があらわれている。

地域材の活用や地場の職人の技術の活用により、地域経済の活性化や文化の継承、地場産業の振興につながることが期待できる。

改修プロセス

既存躯体の劣化状況の把握と耐久性向上のための取り組み

具体的な施設整備の計画は、教育委員会および実施設計を受注した設計事務所が協力して立案した。計画の検討に当たって、学校関係者からの整備内容に関するアンケート及び打合せを実施し、学校側のニーズを教育委員会がまとめた。

校舎を改築するか、長寿命化するか判断として、設計業務内に構造躯体の実態調査を行い、事前に劣化状況を把握した。コンクリート構造躯体の劣化状況では、一部で中性化が進行していたが、コンクリートの圧縮強度が設計基準強度を十分上回っており、長寿命化を実施できると判断した。

建物内部の中性化が進んでいたことから、内部に適した施工性の良い、表面含浸工法を採用した。

これにより、表面に吸水防止層や劣化防止層ができるため、現状以上の中性化の進行と水分の浸入を防ぎ、耐久性の向上（防水性の向上）を図ることができる。

外壁については、外壁モルタルの補修や、一部にはパネル被覆改修工法により安全性や耐久性の向上を図った。



パネル被覆改修工法で既存外壁を別の仕上げ材で覆う

劣化したタイル張り外壁部分には庇等はなく、生徒が通る場所であったことから、タイルの剥落、落下事故を防ぐため、表面を乾式部材で覆うこととした。

これにより、劣化したタイルの剥落による事故を防ぎ、安全性の向上を図ることができる。また、風雨・温度変化等から既存躯体を保護することにより、既存躯体の劣化の進行を抑制することができる。

学校概要

南砺市立井波中学校

富山県 南砺市

全体工期：平成27年4月～平成29年3月

学校規模：6（2）学級、209人 ※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。

敷地面積：32,485㎡

保有面積：8,108㎡（校舎5,676㎡＋屋内運動場2,432㎡）

※平成28年5月当時

主な改修内容

【ライフラインの更新】

- ・ 受水槽の更新及び上下水配管の更新
- ・ 高圧受変電設備及び電気幹線ケーブルの更新 等

【耐久性に優れた材料の使用】

- ・ 外壁塗装には防水系複層塗材を採用
- ・ 屋上防水は改質アスファルト露出断熱防水を採用
- ・ 小庇は塗膜防水を採用 等

【維持管理や設備更新の容易性の確保】

- ・ 各階にパイプスペースの設置
- ・ 点検口の設置 等

【多様な学習内容】

- ・ 学習形態による活動が可能となる環境の提供
- ・ 多目的に活用できる学年ルームとして整備
- ・ 中庭の再整備に伴い、これに面する美術室を半屋外のコミュニケーションスペースとして整備 等

【省エネルギー化その他長寿命化】

- ・ 内壁の断熱化
- ・ 複層ガラスの採用
- ・ 高効率照明（LED）の採用
- ・ 屋上は断熱防水仕様へ改修
- ・ 中間期の自然換気を促進のため、開口部に風を取り込むルーバーを設置 等

【その他】

- ・ バリアフリー化
- ・ 各階に多目的トイレの設置
- ・ 和式トイレを洋式トイレにし、トイレ床を湿式から乾式へ改修
- ・ 地域産材を活用した内装木質化
- ・ 給食調理場の一部増築 等

対話型設計で、学校機能の充実と 地域の居場所となる教育環境を実現

陸前高田市立高田東中学校（岩手県 陸前高田市）

本事例のキーワード

柔軟な学習空間

対話型設計

プロポーザル方式



事例のポイント

プロポーザルコンペによって設計者を選出し、ワークショップや説明会を開催して地域住民の意見を取り入れ、地域に開放した教育環境を整えた。

空間の創意工夫によってフレキシビリティを高め、地域活用や教育のニーズに合わせて柔軟に対応する、ゆとりのある教室環境を実現した。

事例概要

高田東中学校は東日本大震災により被災した広田中学校・小友中学校・米崎中学校の3校が統合し、平成25年に新設した中学校である。陸前高田市は中心市街地の被害が大きく、復興に時間がかかる状況で住民たちの居場所を必要としていた。そこで、学校機能の充実に加え「地域住民の居場所」となる学校づくりを目指した。

設計者選定はプロポーザル方式で行われ、ワークショップや説明会等を行いながら設計作業を進めた。ワークショップは地域住民や小中学生を対象として、要望の収集と計画内容の体験と周知を目的に開催し、その効果を検証するためにアンケート調査を実施。また、新校舎建設の状況を学校づくりニュースとして配布するなど、地域住民を巻き込みながら計画を進めた。

設計事務所は地域との対話の中で、設計に「どこからでも海が見える校舎にすること」「周囲の山並みの風景に寄り添い、木の大屋根に包まれた空間にすること」の2つのコンセプトを設定し、大屋根の下に生徒や地域住民が集う、地域のつながりとなる豊かな空間を実現した。

大屋根の構造や内装材には地域材である気仙杉を用いている。空間の創意工夫によりフレキシビリティを高め、地域活用や教育のニーズに合わせて柔軟に対応する。2階には地域に開放したエントランスを設けてオープンな図書室や多目的ルームを配置。また、普通教室に隣接して多目的スペースをつくり、可動式の間仕切りとして、多様な授業形態に対応している。



事例ポイント 1

空間デザインの創意工夫によるゆとりのある教室環境の実現



教室に隣接した多目的スペース。
左奥はロッカースペースになっている。



ロッカースペースの様子



普通教室。右側壁面の引き戸を開くと多目的スペースにつながる。

学年2学級の中学校整備において、2つの普通教室の間に、ほぼ同じ広さの多目的スペースを配置。壁の一部を可動式の間仕切りとし、引き戸の開閉により、空間的・機能的なつながりを持たせ、多彩な授業形態に対応できるようになった。

また、ロッカーや掃除器具等を教室周辺に配置し、教室内はゆとりがあり、すっきりとしており学びに集中できる教室環境を確保している。

事例ポイント 2

地域と繋がる平面計画

地形をうまく利用し、1階はグラウンドへと繋がる学校のための階、2階は地域と繋がる階とした。

2階には大きなエントランスホールを設け、図書室や多目的ホールを一体空間として地域住民が立ち寄る手がかりをデザインした。

事例プロセス

住民参加型のプロセスで、地域のつながりを生む学校づくりを行う

プロポーザルコンペによって設計者が選定され、ワークショップ及び説明会等を行いながら設計作業が進められた。

住民参加型のプロセスでは、「学校づくりのワークショップ」「説明会」「学校づくりニュースの配布」「高田東中ギャラリー」「希望の木・実りの木」「ブックカフェワークショップ」など、生徒や住民を巻き込む様々な取り組みを施行した。計画内容の周知や地域の要望収集を行い、学区内の小中学生の要望を自由に記述して大きなポスターに貼り、「希望の木・実りの木」として表現・展示した。

設計プロセスのなかに住民との意見交換の機会を設けることで、学校機能に加えて学校開放という形で地域住民の新校舎利用を促し、復興が完了するまでの公共サービスの検討が行われた。時間をかけ、地域との交流を取りながら意見を取り入れていくことで、地域のステークホルダーから理解を得ることができ、互いの情報共有、意見交換のための基盤づくりとなった。

学校概要

陸前高田市立高田東中学校
岩手県 陸前高田市

完成：平成28年10月

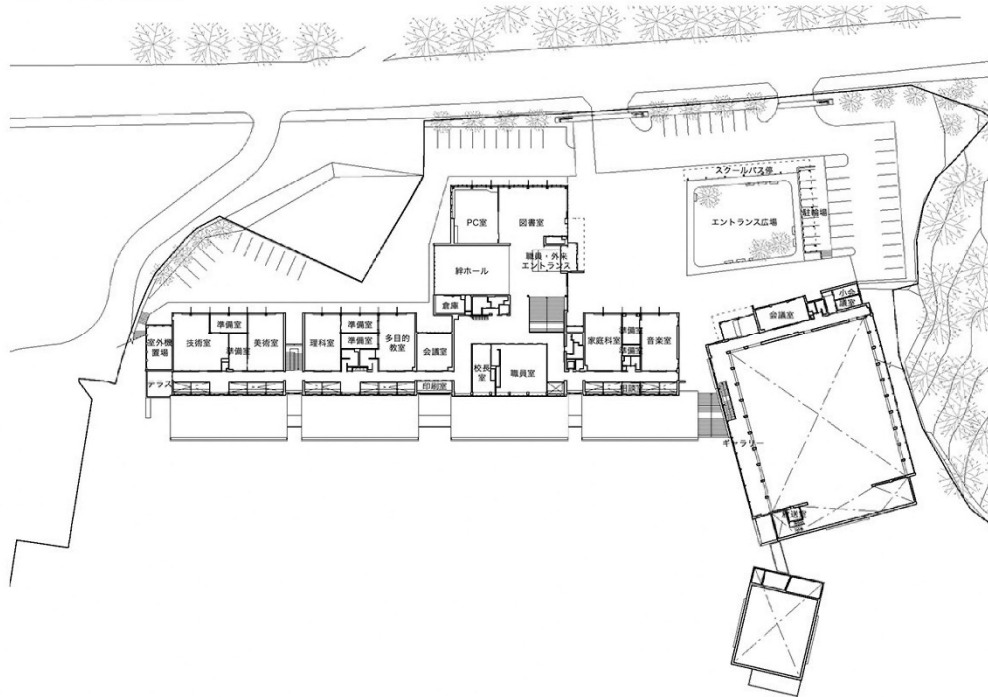
学校規模：6学級(2)、184人 ※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。

校舎面積：4,493㎡

※整備当時

平面図

2階平面図 S=1/1200



1階平面図 S=1/1200

